オオミスジは、その名の通り"大型のミスジチョウ"で確実な生息分布は北海道と本州。幼虫がウメ、スモモ、アンズなどのバラ科植物の葉を食べるため、中部地方の人家周辺でもよく見られるチョウで、最初の出会いは 1962 年 8 月 5 日、下諏訪市在住のメール友達だった方に招待いただき、初めて高知県外へとチョウ採集の旅にでたとき。今となっては初採集の場所やその瞬間を思い出せないが、標本が証拠として残っている。この採集行では、霧ケ峰高原の七島八島で初めてクジャクチョウ、スジボソヤマキチョウ、エルタテハを目にし、霧ケ峰高原から長い距離をずっと歩いて降り立った落合という渓流の堰堤部ではミヤマカラスアゲハが囮に群がってくる様子も目の当たりにした。また、八ヶ岳の中山峠を越えて踏み込んだ林の奥に広がる広大な斜面草原で、いずれも初めての出会いとなるベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、シータテハなどが辺り一面に乱舞する光景に歓喜したものだが、あの生息環境が今でも存続されているのかどうかは分からない。

二度目は、1987 年 8 月 12 日、西穂高・新平湯温泉へ家族で旅行をした際、宿泊宿：甚九郎の玄関先にあった梅の木のまわりを飛ぶきれいな本種をみているが、ビデオカメラを持ってはいたのに撮影記録はなく、採集もしていない。このとき、西穂高ロープウエイに乗るまで長蛇の車の列ができて 5hr ほど待たされたものの、ロープウエイ内では首から上だけを出す形でボストンバッグに入れて飼い猫のゴンタを連れていくなど、愉快な経験をしている。ちなみに、今は天国にいる我が家の飼い猫たちは、遠出の宿泊旅行のほとんどに同行させ、佐渡島、妙高笹ヶ峰牧場、上高地、女神湖、白樺湖、車山高原、愛媛石鎚山、高知梶が森、南は鹿児島桜島、指宿温泉、開聞岳などを経験させている。

オオミスジに関する珍しい記録として、2009 年 7 月 23 日、伊那市長谷で、オオムラサキ、コムラサキ、スズメバチが競っているコナラの樹液にこだわって、何とか仲間入りをさせてもらおうと割り込む様子を観察している。

白水標準図鑑には、山間部の森林中でみることは少ないとの記述があるが、2005 年 8 月 27 日に訪れた人里からはるかに離れた月夜沢林道で、おそらく産卵目的の♀だったと思える個体がカエデ類の多い深みのある林のなかを飛んでいるのをみている。

かろうじて自然状態を撮影できたのが、2012 年 9 月 1 日、飯田市南信濃の道の駅：遠山郷足湯のまわりに植栽されているモモの木に産卵目的でやってきた♀個体のズームアップ記録で、どう見ても産卵行動ではなく飛びつかれて休憩しているようにみえる。あちこちと場所をかえて飛び回るのを、人の気配に敏感なため刺激しないようについていっての望遠撮影のため、鮮明な記録がとれていない。それにしても、9 月 1 日とはかなり遅い発生記録ではないだろうか。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.